

特集

教育実習

今回は小平市立第十四小学校で教育実習をされた堀田さん、宅島さん、そして学校支援ボランティアをされている小林さん取材しました。とても参考になるお話がたくさん！さっそくどのようなことをされたのか見てみましょう。

日記

私たちが取材に行きました！

ともこ

たけはな





A類 国語選修 4年

堀田 裕人さん

とても教育熱心で、子どもたちからも人気の堀田さん。
実習中の楽しげな様子が伝わってきました。



■取材日の授業内容について

6年生はそれぞれ違う意見を持っているということが分かり始める年齢だと思っただけ、授業で討論会を取り入れることにしました。研究授業では浜松市出身ということもあり、「増殖したムクドリを駆除すべきか」を議題にしました。

■授業に対する子どもたちの反応

研究授業に向けた準備段階としてさまざまな議題で討論を行ったのですが、議題の問いかけ方によって反応がまったく違うんです。子どもたちが受け入れやすいように言葉のかけ方には気を使いました。

子どもたちは生活の中で友だちに対して乱暴な言葉を返してしまうことがあります。立場が違う人の意見も尊重しながら話し合うことで相手を高めようという目的でした。討論会を楽しんでもらえたのはよかったです。国語の力は目に見えるわけではないですが、気づいたら相手の話を聞ける、自分の意見を話せるようになっていくということが大切だと思います。この授業を通して少しでもその力が身についたら嬉しいです。

■子どもへの接し方で心がけたこと

言葉遣いは特に気をつけました。実習生なので先生としてだけでなく、友だちとして関わることでも大切ですが若者言葉は極力控えるようにしました。また、日頃から子どもたちの規範となる態度を心がけました。

■現場に立ってみて感じたこと

やっぱり、やってみて楽しかったです。実習を経て、「この子たちともっと一緒にいたい」「担任の先生として子どもたちの成長を見届けたい」と思うことができました。

基礎実習のとき、担当の先生に「もっと子どもの意見を楽しみなよ」と言われました。応用実習ではそれを踏まえて、こんな意見もあるんだと子どもたちの意見を驚きつつも楽しめたことは自分自身の成長かなと思います。

■移動教室はどうでしたか

正直、体力的にも精神的にもきつかったですね(笑)。

まだ出会ったばかりで、お互い慣れておらずまとめるのが少し大変でした。今までは移動教室に連れて行かれる側でしたが、連れて行く側に立つて、先生方が裏でたくさんのお仕事をしていたことに気づき驚きました。

■実習先の担当の先生からの指導で印象に残ったこと

勉強してきたことのすべてをどう活用すべきかという悩みを日誌に書いたところ、指導担当の先生から「指導は魔法じゃない」という言葉が返って来ました。これをやれば上手くいくという指導はなくて、状況に応じて試行錯誤していく大切さをあらためて感じさせられました。

私のことを実習生としてではなく、一人の新任教師として指導してくださったことも、とても感謝しています。



- お別れ会と給食の様子
- 子どもたちに積極的に話しかけ
- 打ち解けている堀田さんの姿が印象的です。

おいしい給食！



■実習前にやっておくべきことは何ですか

指導案を書く練習をやっておくべきだと思います。私は国語科の自主ゼミで、4月頃自分なりに1本指導案を書きました。授業では指導案を書く機会が少ないので、自主的に練習をするの良いと思いますね。

あと…早寝早起き！(笑)。僕は夜型だったので、実習のために1週間前から朝型に切り替えられるよう心がけていました。でもやっぱり、毎朝栄養ドリンクは欠かせませんでしたね(笑)。

■これまでの大学生活で役立ったこと

初等教育法の授業は実習で本当に役立つと思います。今から受ける人はしっかりと聞いておいてください！興味のある分野の知識を貯えておくことで、他との比較対象ができると思うので、ひとつ確立した理論を持つておくことも大切です。

あとは、友だちとおもいきり遊ぶことも話のネタとして役立ちます。私は、友だち6人でワカサギ釣りに行って12匹しか釣れなかった話をしたら子どもたちに好評でした。

■研究室では何を勉強されていますか

国語科は国語専門と国語教育にわかれています。私は国語教育を専門に研究しています。自主ゼミなどで他の学生と意見交換をしてより良い授業を考えています。

今回の実習では最終授業に向けてスモールステップを踏むことで討論の力を身につけさせました。このような授業の進め方は研究していることが反映する良い機会になりました。

■先生とはどんな存在ですか

教師の仕事というのは、教えることではなく学ばせることだと思います。

あと、教師は子どもたちにとって、家族の次に長く一緒にいる大人だと思うんです。だからこそ、家族が見ていない間には自分が見ているんだという自覚を持つ必要があると思っています。そして、子どもたちの見本や目標であってほしいです。

先輩へのアドバイス

教育実習は、いい意味でも悪い意味でも一度きり。これ一度で教師になるかどうかを決める必要はありません。今までやって来たことの腕試しとして、改善点を見つける場として、とても良い機会になるはずなので、まずは楽しんで頑張ってください。



今回のインタビューの際にはお別れ会で子どもたちからもらったプレゼントも見せていただきました。堀田さんは、今伝わらなくても将来子どもたちが見たときにわかってもらえたらいいという気持ちを込めて一人一人に手紙を渡したそうです。その手紙を読んで涙を流した保護者の方もいたよう。3週間の堀田さんの実習の有意義さがうかがえます。



子どもからのプレゼント！



A 類情報教育選修 4年

宅島 苑実さん

次に紹介するのは、宅島苑実さん。
ハキハキと授業をする姿が印象的でした！



算数の授業をする宅島さん



ICTを取り入れています！

■教材日の授業内容について

「少数のかけ算を考えよう」という算数の授業を行いました。教材研究の段階で、デジタルで覚えたほうが理解しやすい範囲だと思ったので、図を多用してイメージできるように工夫しました。

また、電子黒板も使いました。これがメインとならないように、あくまで補助的に使うことに気をつけました。

■授業に対する子どもたちの反応

整数などへの理解は早かったのですが、少数倍への理解は難しかったようです。まだ、頭の中で整理して計算できるところまでいってなかったので、そこに目標を絞って教えることに専念しました。

■実習前によくしておくべきことは何ですか

実習の前日まで陸上部の集大成って感じの大会があった（笑）。実習までが本当に忙しくてしつかりと準備することができませんでした。反省として言うと、単元として授業をするためにも、指導する範囲だけでも教科書は見ておくべきだと思います。

小学校のHPなどで子どもたちや学校の雰囲気を知っておくのも良いと思います。ちなみに私は、学校のHPに載っている校長先生のブログを読ませていただきました！あと、事前に生徒の名前は覚えておいたほうがいいです。私は、打ち合わせの際に子どもたちの将来の夢が書いてあるプリントをいただきました。名前と一緒にそれも把握することで、子どものイメージも掴みやすいですし、会話のネタにもなりました。

■現場に立ってみて感じたこと

基礎実習での附属校と、応用実習での公立校での生徒間の学力の違いを感じました。公立校ではクラス内での学力レベルの違いが大きいので、同じ授業を受けさせることは難しいです。授業の難易度を調節することも必要ですが、声かけやグループワークなど個々の対応でフォローすることが大切だと思います。

実習では学習指導が主となりますが、教師という立場に立ったときは、それに加え、学級経営や校務などさまざまな仕事をしなければなりません。将来教師になったときのことを考え、今回は指導してくださった先生方の学級経営に注目し、参考にさせていただきました。

■実習先の担当の先生の指導で印象に残ったこと

私の性格上、子どもたちに厳しく当たることができないと担当の先生にはあらかじめ伝えておいたので、「みんなにとってお姉さんのような存在でもいい」と言っていたいたことが印象に残っています。ずっと先生でいてしまうと子どもたちも気軽に相談したいことが言えないかもしれないし、だからといって、ずっとお姉さんのような存在でいることももちろん違います。だからこそ、しつかりとメリハリをつけて接することが大切ですし、教師になったときも使える技だと思います。

あと、担当教諭ではないのですが、校長先生の「習うより慣れる」という言葉が印象的です。まずは学校生活に慣れることを大切にしたい3週間にしてくださいとのことだったので、私もそのことを考えながら過ごすことができました。迷っているときにこのような言葉をかけていただいたことで、自信を持って実習に取り組むことができました。



名刺表を裏に入れておくともっと便利!

■基礎実習の経験で活かされたことは

基礎で先生の言葉で子どもたちのやる気や理解がすぐく変わってくることに気づいたので、応用では考えて声かけをしました。例えば、ぼそっとつぶやくように何か言ってみたりとか、わざと問題を間違えてみたりとか…。私の言葉の変化をすぐに感じ取って興味を示してくれました。

板書は学力以前に子どもたちの意欲につながるものだと基礎実習のときに教わりました。基礎では1日1授業なので、担当の先生と一緒に毎回板書の振り返りをしました。応用では授業数も多いですし、毎回の振り返りをできませんでしたが、意識をして改善させていくことはできたと思います。

■これまでの大学生活で役に立ったこと

指導法は授業をする目的を学べるのでしっかりと聞いておくべきだと思います。それぞれの教科の目的を知っておくことで、実習前になって焦ることなく準備ができると思います。あと、研究の授業で自分の専攻外の教科も勉強しておくことは、子どもたちがどうしてつまづいてしまっているのかを考える良い機会になりました。

「ICTを活用した授業づくり」という授業は、ICTの効果的な使用方法を教えてくださいるので、授業のノートやレジュメを参考に実習に役立てました。



指導担当の市野先生とバシャリ

■子どもへの接し方で心がけたこと

先生として接することをころがけていたのですが、担当の先生から「年の近いお姉さん」という面も出したほうがいいと言われました。そこからは、授業中は先生として、給食や休み時間はお姉さんとしてメリハリをつけて接するようにしました。

あと、高学年ということもあり、女の子たちからは「どこで服を買っているの?」「好きな子がいる」などいろいろな質問をされました(笑)。先生という立場もあるので、質問に対してはよく考えて答えるようにしていました。

■先生とはどんな存在ですか

実習先の担当の先生を見ていて、指導する立場にいるとともに、子どもたちにとつての家族のような存在でありたいなと思いました。私は、家族に話しくいことでも話せる二人目のお母さんのような先生を目指したいと思います!また、子どもたちの人生をつくっていく一人として、責任を持った行動をしていきたいと思っています。

私が小学校のときの担任の先生が「今印象に残らなくても、将来みんなの心に残る指導をします」ということを言っていた意味が成長するにたがって理解できるようになって、今になってすごい先生だったなって気づいたんです。私も子どもたちの印象に残る存在になれるよう頑張ります。

先輩へのアドバイス

とことん教育について学べる学芸大学は、教師を目指す人にとってとても良い環境だと思います。勉強だけでなく、部活やバイトなどは実習でも役立つのでぜひ経験してほしいです。全力で頑張ることは必ず結果につながるので、たくさんことに挑戦してください!



笑顔がとても素敵な宅島さん。取材中は少し緊張しながらも、実習の様子を楽しそうに話してくださいました。子どもたちへのプレゼントは手作りの葉。葉には、子どもたちの名前入りのメッセージが書いてあり、喜んでもらえたそうです。



子どもからのプレゼント!



大学院教育学研究科総合教育開発専攻
情報教育コース 1年

小林 信輔 さん

最後は教育支援ボランティアとして活躍している小林さんです。教育実習の後も引き続き小平市立第十四小学校で学習支援をされています。



取材日は4年1組を担当されていました。

■ボランティア活動をしようとしたきっかけ

実習前に配属クラスを見学しに行った際、校長先生からボランティアの登録を勧められたことがきっかけです。実習前にも何度かボランティアとして子どもたちと接する機会がありました。それにより、学校の雰囲気や子どもたちのことを知ることができ、実習がとてもしやすかったです。

■ボランティア活動の内容はどのようなものですか

一日一クラスを見る形で行っています。見るクラスは指定される日もあるし、自分で選択できる日もあります。基本的には担任の先生の意向に沿って子どもたちの学習支援をしています。一般的には低学年のほうが手がかかると言われているため、そちらに配属されることが多いです。低学年では学習支援というよりは、子どもたちの面倒を見る役割として、担任の先生が見きれない部分をフォローできるような心がけています。高学年の場合は、問題がわからない子に助言をするなど学習面をサポートしています。

■子どもたちへの接し方で心がけていることは

はじめをつけることを大切にしています。子どもたちは時間かまわず話しかけてくるので、一緒になって話すのではなく、状況に合わせた対応が必要だと思います。継続してけじめのない態度をとってしまうと学級の秩序を崩してしまうこともありますし、担任の先生にも迷惑をかけてしまいます。そのため、一回一回の対応が大切になってくると感じます。

■学級経営への関わり

あまり手を出してはいけない部分だと思っているので、そこまで大きくは関わっていません。もし自分が担当のクラスを持っていたら、補助の人がガツガツ来られても良い気はしないと思うので…。先生がいけないときは、「さっき先生がこう言っていたよね」というように先生ありきの指導をさせていただいています。

■ボランティアで最も大切なこと

現在の大学院生としてのボランティア活動で最も重要なのは、研究を進める上で、また自分が教員になる上でのフィールドとして小学校を使わせてもらえることです。

具体的には、ボランティア活動の中で疑問に思ったことなどについて、大学の先生に指導を受けています。このように、ボランティア活動での経験を単なる経験で終わらせず、再び学問として分析しなおすことで、研究や教員を目指す上での土台になると考えています。



笑顔でピース!



■ボランティア活動の中で教育実習が活かされていると感じたこと
 授業そのものを見る目が鍛えられたなどと思いますね。同じ授業でも、実習を経験しているかどうかで気づくことが全然違うと思います。授業を作る側の視点を持てることで、先生の意向を汲み取りやすくなり補助としての線引きを大切にして行動するようになりました。また実習先のボランティアなので、子どもたちも覚えていてくれていてとてもやりやすいです。

■ボランティアを通して勉強になったこと
 先生がどんな学級経営をされているかを長いスパンで継続して見ることで、とても勉強になります。僕はこの一ヶ月間特別支援を担当させていただいています。このように定期的に学校の中にいることで、移動教室や遠足の引率をさせてもらうなど、学校組織の一員として多くのことに関わることができそうです。学校は狭い社会なので先生方とのつながりが大切ですね。



■子どもたちにとって先生はどのような存在ですか
 勉強すればするほど分からなくなってくるように…。難しい質問ですね。今までは「信頼」さえあれば、授業が上手くなくても大丈夫だと思っていました。しかし、上手な授業をすることで「信頼」を持って子どもたちがついてきてくれるんだと思います。授業の技術は教師になる前から身につけておくことが大切なのだと感じました。知識は大学の授業でいくらでも蓄えられるし、教科の勉強はもちろん、教材研究や教科の特性を知ることが良い授業づくりにつながります。

■学力差があるクラスでの指導は難しいですか
 基礎と応用で大きな違いを感じるのは当然のことだと思います。基礎実習では、子どもたちが実習慣れしているということもあり先生の意向を汲み取るような力があるので、子どもたちに助けてもらう場面も多々あります。しかし応用実習では、ボランティアとして実習前から関わっていたことで学習の様子は見えていましたが、いざ指導を試みるとなかなか苦戦してしまいましたね。子どもたちが実習慣れしていない上に、クラス内での学力差が大きいです。授業内容を考えさせる段階に行く以前に、「これだけは理解してもらおう」という最低限の目標を立てることが鍵になると思います。

後輩へのアドバイス

実習に行く人へ

いっぱい悩んだほうが良いと思います。悩んだ分だけ自分の視野が広がり、振り返ったときに得るものが多いです。また、いろんな人の意見を受け入れ吸収することも必要です。そして授業のときは自信を持ってやってください！

これから大学に入る高校生へ

教育実習を2回できるチャンスがあるところがこの学芸大の強みだと思います。学芸大はいろんな分野があり、自分の専門だけでなく多くのことを学べ、経験できます！



小林さんは毎週木曜日にボランティアをされています。将来は、東京都で全科の小学校教員を目指しているそうです。大学院生ということもあり、実習生のお二人とはまた違った目線でインタビューに答えてくださいました。自分の理論をしっかりと持たれていて、良い先生になられるのだらうなと感じました。



一番のリフレッシュ方法はサークルでのサッカー！



堀田裕人さんの
3weeks

1st week

- ・放課後に校長先生や栄養士の方の講話を聞いたり、授業参観をして学校実態を知る。
- ・東京都の教育の仕組みや、教師について教えてもらう。
- ・子どもたちとの仲を深める。
- ・通級に通っている子の現状把握。
- ・後半からは少しずつ授業に参加していく。

2nd week

- ・1日に2～3時間授業をする。
- ・3日間の移動教室（八ヶ岳）。酪農体験やキャンプファイヤーのサポート。

3rd week

- ・担任を持ったり国語の授業をしたりする。
- ・研究授業に向けての準備。
- ・体力テストの手伝い。
- ・子どもたちへの手紙の準備も始める。



宅島苑実さんの
1day



7：30 出勤

- ・授業準備や実習仲間、担任の先生との話し合い。
- ・実習日誌を書いたり、板書計画をする。

8：50 子どもたちの登校

- ・登校指導をする。

8：15 職員の朝会

10：00 中休み

- ・おとなしい子たちと積極的に接したり、活発な子とドッチボールをしたり、たくさん子どもたちとふれあう。

16：00 先生と反省、授業準備

- ・担当の先生に1日を通しての指導をしてもらう。
- ・実習日誌を書く。

19：00 退勤

- ・大学の図書館で日誌の続きや、授業準備。

ともこ&たけはなの 編集後記

この記事で教育実習そして学芸大の魅力を伝えることができれば嬉しいです。3人それぞれの想いが心に響き、とても思い出に残る取材でした。ご協力ありがとうございました！

